

## 萩の文学碑

NO	句碑名	碑文	建立位置	建立者・揮筆	建立年月日
1	阿部宗義句碑	幾千代の 光りや月の 男山	三田八幡宮	阿部宗義 (自筆)	安政6年9月 (1859年)
2	阿部宗義句碑	瑞籬や 月も輝く 志都岐山	萩城跡 花江茶亭前	阿部宗義 (自筆)	明治16年 (1883年)
3	阿部宗義句碑	香にそれと 見あける梅に 月朧	金谷神社、稻荷神社側	阿部宗義	不明
4	阿部宗義句碑	三峯照る 月影汲むや 手水川	三見手水川	阿部宗義 (自筆)	不明
5	安藤垂声坊句碑	花散て 月すむひと夜 二夜哉	椿 大照院、前庭		
6	安藤孫一句碑	つる江台 安村にした 平和橋	椿東 香川津		昭和30年9月 (1955年)
7	石津吾朝句碑	雨になりて 動き静まる 柳かな	鶴江台 (国司家畑の上の斜面)		
8	和泉式部歌碑	はるはたゝ 我やとのこす 梅咲は かれこし人も 見にと来なまし	土原 弘法寺、本堂右手		不明
9	和泉式部歌碑	人もみな 見せもきかまし 萩の花 咲夕暮の 日くらしの声	土原 弘法寺、庫裡手前		不明
10	伊藤柏翠句碑	この花の 松陰を生み 志士を生む	椎原 松陰墓地横		
11	井上剣花坊句碑	飛びついて 手を握りたい 人ばかり	江向3区 萩市民館前	萩ユネスコ協会 (長男、麟次郎)	昭和45年11月3日
	井上信子句碑	国境を 知らぬ草の実 こぼれ合ひ		萩ユネスコ協会 (自筆)	
12	井上剣花坊句碑	突き進む にきりこふしへ 当る風	堀内 旧厚狭毛利家萩屋敷長屋の隣地 (萩焼・堀之内陶苑西側)	大庭政雄	平成9年9月 (1997年)
	井上信子句碑	八十年 洗ひ晒しに 堪えた生地			
13	井上剣花坊句碑	後五百年 凡駒生れて 又千里	南古萩町 慶安橋たもと河川敷 (喫茶・異人館東前)	進藤竹生・芳枝	平成9年9月 (1997年)
14	井上剣花坊句碑	親といふ 宝はみんな 持ってゐる	唐樋町 萩信用金庫本店前札場跡	萩信用金庫	平成9年11月 (1997年)
15	井上剣花坊句碑	黎明に ひとり坐つて 神を待つ	椿東 萩本陣史跡庭園内	松村建設株式会社	平成10年3月 (1998年)
16	井上剣花坊句碑	いっぱいこよろこひを吸ふ 朝の窓	椿 萩有料道路萩往還公園内	社団法人萩物産協会	平成10年3月 (1998年)

NO	句碑名	碑文	建立位置	建立者・揮筆	建立年月日
17	井上剣花坊句碑	何よりも 母の乳房は 甘かりし	江向3区 井上剣花坊誕生地 (増野家東側隣地の駐車場前)	井上剣花坊顕彰会 萩川柳会 萩ユネスコ協会 井上秀夫(用地寄付)	平成10年5月 (1998年)
18	井上剣花坊句碑	憧れを 画かけと空は たゞ蒼し	堀内 素水園(田中義一銅像) (理容サカエ東前)	長谷智・智隆	平成10年5月 (1998年)
19	井上剣花坊句碑	絶頂て 天下の見えぬ 霧の海 見たゞけて 碑文は読まず 皆通り	古萩町 長州屋光国製菓本舗前 (萩グランドホテル西側)	光国忠史	平成10年5月 (1998年)
20	井上剣花坊句碑	新しい 心になりぬ 初日の出	浜崎 住吉神社境内 (正門北側)	住吉神社	平成10年5月 (1998年)
21	井上剣花坊句碑	結び切る やかてを落つる 花の露	新川 コープ葬祭前 (山口県経済連萩加工場東前)	株式会社コープ葬祭	平成10年11月
	井上信子句碑	何ものゞ 在すか西の 懐かしさ			
22	井上剣花坊句碑	偉大なる 存在なりし 松下塾	椿東 松陰神社	松美屋醤油会長 松野忠次 上田俊成	平成17年4月11日 (2005年)
23	井上剣花坊句碑	活眼をひらくとゴミが眼にはいり	菊ヶ浜海岸	赤木新吉 野村興児市長揮毫	平成17年6月19日 (2005年)
24	大中一忠歌碑	南明寺 大いと桜 咲き満ちて 天降る五百重の 瓔珞のかけ	椿 南明寺	『歌と評論』萩支部 指月短歌会	平成15年3月1日
25	各務支考(東花坊)句碑	六月に よき隣あり 萩の花	土原 弘法寺「萩墳」左側		
26	金花庵仙里句碑	二三人 立留りて 野梅哉	椿 大照院		天明5年12月 (1785年)
27	久坂玄瑞歌碑	けふもまた 知られぬ露の 命もて 千年も照らす 月を見るかな	平安古町 久坂玄瑞誕生地	板垣義正他 3人の有志 (藤田鴻輔)	昭和14年5月 (1939年)
28	熊谷蘿月句碑	竹の葉に 蝶とまりけり 夕曇	椿 大照院		
29	原水園花香句碑	啼けは淋し なかねはなほも かんこ鳥	土原 弘法寺	小倉美和	文政6年2月14日 (1823年)

NO	句碑名	碑文	建立位置	建立者・揮筆	建立年月日
30	小島経彦歌碑	一本のこる 大むくの樹よ この下に 明治の少年ら 大志かたりし	樺東 樺東小学校	有志 (自筆)	昭和46年7月8日 (1971年)
31	児玉此君句碑	むら雲は とれてすらりと 登る月	金谷神社、裏の梅林の中	児玉愛二郎	明治35年4月 (1902年)
32	児玉花外詩碑	三百年の 萩の花 一たび揺れて 血の勝利	堀内 萩城跡	萩文芸協会 (児玉花外)	昭和12年12月9日 (1937年)
33	佐々部玄庵歌碑	父母に 呼れて仮の 客に来て 元の住家へ 帰る身なれば	土原 弘法寺		
34	三条実美歌碑	この国の 濁らぬ水に すむ魚は 遊ぶさまさへ 勇ましきかな	越ヶ浜 明神池畔	国重政亮 (国重政亮)	昭和11年12月9日 (1936年)
35	三条実美歌碑	九重の みはしのちりを はらはむと こゝろも身をも うちくたきたる	平安古町 久坂玄瑞誕生地	藤田鴻輔他 4人の有志 (三条公輝)	昭和14年5月 (1939年)
36	山晴句碑	人声の 聞へてさひし 秋の山	樺 大照院、前庭		文久3年4月 (1863年)
37	穴戸乙二句碑	木枯しや 空吹て居る 小松原	鶴江台、音聲寺跡	石津吾朝等	天保11年 (1840年)
38	昭和天皇歌碑	秋ふかき 海をへたてゝ ゆりやかひの すめる見島を はるか見さくる	見島 宇津、公民館横		昭和39年 (1964年)
39	昭和天皇歌碑	秋ふかき 海をへたてゝ ゆりやかひの すめる見島を はるか見さくる	越ヶ浜 笠山山頂	(入江相政)	昭和39年10月 (1964年)
40	昭和天皇歌碑	そのむかし アダムスの来て 貝とりし 見島をのぞむ 沖べはるかに	越ヶ浜 笠山山頂	(菊屋嘉十郎)	昭和57年10月 (1982年)
41	昭和天皇歌碑	波たゝぬ 日本海にうかびたる 数の島影は 見れど あかぬかも	越ヶ浜 笠山山頂	(菊屋嘉十郎)	昭和57年10月 (1982年)
42	成青句碑	あら花の 散や閑の あるかきり	土原 弘法寺、蘇鉄の木の後		
43	青梨句碑	空にみつ つゆ霜尽て 枯野かな	土原 弘法寺		
44	夕庵悟葉句碑	ぬるみ江や 一日遊ぶ 雲の影	樺 大照院、前庭		
45	雪炊庵句碑	萩に花の さく時来るも 来たことよ	土原 弘法寺		

NO	句碑名	碑文	建立位置	建立者・揮筆	建立年月日
46	仙石蘆元坊句碑	竿鹿も ねに来よ萩に 一夜庵	土原 弘法寺		
47	仙石蘆元坊句碑	住倦た 世とはうそなり 月よ花	椿 大照院、梅園中央		
	各務支考(東花坊)句碑	すゝしいに 我にもたせよ 馬の綱			
	田中五竹坊句碑	四五本の 竹におくあり 朧月			
48	祖式尹哉句碑	雪とけや 空はことなき 水のおと	椿東 鶴江台 国司家内庭		天保11年秋 (1840年)
49	高杉晋作歌碑	七言絶句「言志・題焦心録後」 内憂外患迫吾州 正是存亡危急秋 唯為邦君為家國 焦心碎骨又何愁	南古萩 高杉晋作誕生地	東行会	昭和11年7月
50	高杉晋作歌碑	西へ行く 人をしたひて 東行く 心の底そ 神や知るらむ	南古萩 高杉晋作誕生地	秋山覚治郎 (海園)	昭和12年春 (1937年)
51	竹内勝愛句碑	武士の 露と消えゆく 枯野かな	椿東 東光寺		
52	竹内八郎歌碑	家ごとに 池を構へて 水を引き 朝夕清き 藍場川流る	川島 藍場川分岐点	有志 (梅村香暁)	昭和48年3月4日 (1973年)
53	竹奥舎其音句碑	めくる道の 恩にはかろし 雪の笠	椿東 鶴江台 国司家前の畑	婦人連	文化14年1月 (1817年)
		恩の笠や 着て行春の 旅の曠			
		淡雪や 花と呼ふ名の 間はわつか			
54	竹奥舎其音句碑	蚊の聲の 次第に遠し 竹の奥	椿東 鶴江台	菖蒲庵連中	文政7年11月 (1824年)
55	田中五竹坊句碑	四五本の 竹におくあり 朧月	椿 大照院		
56	致一坊句碑	臘八や 世は一へんに 雪の花	椿 大照院、前庭		
57	都野正太歌碑	笠山に 祖父が植ゑたる桜花 六島の海に吹雪きて止まず	越ヶ浜 笠山山頂	萩市	
58	新山春太郎歌碑	外国を 打平けて 武士の御代 萬代と建し石ふみ	大井 大井八幡宮		日清・ 日露戦争後か

NO	句碑名	碑文	建立位置	建立者・揮筆	建立年月日
59	羽衣亭寛綱句碑	雨よしと 桜見る見る 寝入りけり	上津江 龍蔵寺、庭		
60	原箇枕句碑	茶に焚て 氷の味は なかりけり	椿 大照院、前庭		安永10年2月 (1781年)
61	原田只月句碑	懐しき 島見かへれば 風薫る	肥島		
62	福江百重歌碑(現在なし)	諸人の あらそひ植し神垣の 梅の林は 世世に栄えむ	塩屋町 多越神社		明治9年5月
63	藤田鴻輔句碑	ひよろつくと しかりとはすそ 村田翁	平安古町 村田清風旧宅跡	藤田鴻輔	昭和11年 (1936年)
64	松尾芭蕉句碑	によきによきと 帆はしら寒き 入江かな	椿東 鶴江台	竹奥舎其音・ 菖蒲庵連中 (白寿坊)	文化5年 (1808年)
65	松尾芭蕉句碑	松風の 落葉かみつの 音涼し	大井 高倉荒神社	大井の俳句グループ 隼連	天保6年3月12日 (1835年)
66	松尾芭蕉句碑	はるもやゝ けしきとゝなふ 月と梅	大屋 涙松碑の下	山本七兵衛	嘉永2年 (1849年)
67	松尾芭蕉句碑	古池や 蛙飛こむ 水の音	塩屋町 多越神社		不明
68	松尾芭蕉句碑	白露を 翻さぬ萩の うねり哉	土原 弘法寺		
69	松尾芭蕉句碑	川上と この川下や 月の友	中津江 石橋家、庭園入口		
70	松尾芭蕉句碑(現在なし)	名月や 池をめくりて 夜もすから	中津江 元寄組、梨羽家の下屋敷跡		
71	松尾芭蕉句碑	梅か香に のっと日の出る 山路哉	中の倉 人丸神社		
72	松尾芭蕉句碑	月早し 梢はあめを 持なから	椿 大照院、庫裡の前		
73	松尾芭蕉句碑	月見せよ 玉江の芦を からぬさき	玉江浦 観音院		不明
74	松尾芭蕉句碑	うたかふな 潮の花も 浦の春	三見浦 潮音寺	有志(7名)	安政2年秋 (1855年)

NO	句碑名	碑文	建立位置	建立者・揮筆	建立年月日
75	松山善三夫妻語碑	われ一粒の麦なれど	江向 明倫小学校	肢体不自由児学級 協力者有志 (自筆)	昭和39年11月 (1964年)
76	村田清風詩碑	七言律詩「己亥孟春偶成」(漢詩文略)	平安古町 村田清風旧宅跡		明治44年春 (1911年)
77	村田清風詩碑	芳梅籬外之楹 寒月門前之石	平安古町 村田清風旧宅跡	藤田鴻輔	昭和13年4月 (1938年)
78	安田以哉坊句碑	萩に花の さく時来るも 来たことよ	土原 弘法寺、「萩墳」右側		
79	山根素全句碑	星の光り 尖く秋の 暮て行	土原 弘法寺、「萩墳」後方		
80	山本佳兆句碑	天みつる 薫をこゝに 梅の花	椿 大屋、梅林園	山本七兵衛	嘉永2年 (1849年)
81	吉井勇歌碑	萩に来て ふとおもへらく いまの世を 救はむと起つ 松陰は誰	椎原 松陰墓地前	有志 (自筆)	昭和41年5月22日 (1966年)
82	吉田松陰歌碑	帰らしと 思ひさためし 旅なれば ひとしほぬるゝ 涙松かな	大屋 涙松遺址	椿村 青年会 (瀧口吉良)	大正3年9月 (1914年)
83	吉田松陰詩碑	士規七則 (略)	堀内 萩高校		大正4年11月 (1915年)
84	吉田松陰歌碑	親思ふ こゝろにまさる 親こゝろ けふの音つれ 何ときくらん	松陰神社	萩ライオンズクラブ (下瀬茂雄)	昭和37年6月 (1962年)
85	吉田松陰詩碑	七言詩「獄中間渋木生赴」(漢詩文略)	今古萩 岩倉獄跡		
86	和智東郊詩碑	日上林巒入画図 疊成素練掛崎嶇 請看石上題詩処 字々与流飛作珠	大井 高倉荒神社		宝暦13年

NO	句碑名	碑文	建立位置	建立者・揮筆	建立年月日
87	作者不明歌碑	古枯松 わたれは北は 唐のしま 散りゆく花は とらの尾と見た	大井 高倉荒神 参道中腹		文政9年3月 (1826年)

#### 参考文献

- 『防長文学碑採拓行』(西村勇著) 独楽庵発行 昭和58年10月20日発行  
『続・防長文学碑採拓行』(西村勇著) 独楽庵発行 昭和62年8月20日発行  
『防長文学碑採拓行(芭蕉編)』(西村勇著) 平成元年10月14日発行  
『ふるさと文学紀行』 山口県ふるさとづくり県民会議 編・発行 平成元年3月31日発行  
『山口県近代文学年表』(山口県近代文学年表作成委員会編) 山口県教育委員会発行 昭和47年3月31日発行  
『萩俳諧史』(山本勉彌著) 萩文化協会発行 昭和28年10月15日発行  
『史都萩 ―合冊本―(1号～50号)』 史都萩を愛する会 編・発行 (昭和42年3月発行分から昭和62年7月1日発行分まで合冊)  
『創立三十周年記念合同句集 川柳萩』(大場孔晶他編) 萩川柳会発行 平成13年7月15日発行  
『井上剣花坊句碑案内図』 井上剣花坊顕彰会 編・発行 平成13年7月発行